

第66回 社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防ぎ、立ち直りを支える地域のチカラ～



▲ 海王丸と新湊大橋をバックに記念撮影



射水保護司会でも、市民すべての願いである犯罪や非行のない明るい社会の実現に向け、毎年「海の日」に海王丸パークで「社会を明るくする運動」の街宣活動を行っています。

七月は社会を明るくする運動の強調月間です。全国で、さまざまなイベントや活動が行われます。「社会を明るくする運動」はすべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において、力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

海王丸パークで 街宣活動

七月十八日、五十嵐繁久射水保護司会長のあいさつ、富山保護観察所中澤企画調整課長から激励の言葉をいただき、広報グッズを手に、会場で更生保護などの大切さと理解を訴えました。



『更生保護サポートセンター射水』

射水市役所大門庁舎 車庫棟2階

〒939-0234 射水市二〇1081番地

電話：0766(52)7696

FAX：0766(52)7697

E-mail: imizuhogoshikai@gmail.com

ホームページURL: hogosi.com

月曜日から金曜日

午前9時30分～午後3時30分まで

企画調整保護司が交代で常駐しています。



◆射水市推進委員会開催

六月六日射水市大門庁舎で、市内二十二の構成機関及び団体により「社会を明るくする運動」射水市推進委員会が開催されました。まず委員長の夏野元志射水市長、続いて主唱者の富山保護観察所長代理として中澤秀高企画調整課長、次に委員代表として、中川新太郎射水警察署長があいさつされました。

夏野委員長を議長に選任し、平成二十七年実務結果の報告、次に平成二十八年実務を明るくする運動実施要項(案)実施計画(案)が審議されました。

非行や犯罪の予防は勿論、立ち直ろうとする人に必要な支援(仕事や居場所)を与える地域が、新たな犯罪を生まない安心安全な地域になるのではないかと、この視点に立ち、より一層の地域の協力・連携の必要性を再確認しました。



▲ 津田 信人市議会議長(右)



▲ 夏野 元志射水市長(右から2人目)

第66回「社会を明るくする運動」
～保護や虐待を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～
の推進に当たってのお願い

「社会を明るくする運動」は、全ての国民が、犯罪や虐待の防止、あらゆる被害者の救済と立ち直りを支えること、犯罪の再発防止、地域の安全・安心・健康な社会の実現を目的として、国・自治体・民間が連携して取り組むべき社会運動です。

犯罪や虐待のない社会をつくることは、全ての国民が誇れることであるべきです。そのためには、あらゆる被害者の救済と立ち直りを支えること、犯罪の再発防止、地域の安全・安心・健康な社会の実現を目的として、国・自治体・民間が連携して取り組むべき社会運動です。

富山県においては、2015年(平成27年)に「社会を明るくする運動」富山県大会を開催し、県民一人ひとりの意識を高め、犯罪や虐待の防止、あらゆる被害者の救済と立ち直りを支えること、犯罪の再発防止、地域の安全・安心・健康な社会の実現を目的として、国・自治体・民間が連携して取り組むべき社会運動です。

富山県では、2015年(平成27年)に「社会を明るくする運動」富山県大会を開催し、県民一人ひとりの意識を高め、犯罪や虐待の防止、あらゆる被害者の救済と立ち直りを支えること、犯罪の再発防止、地域の安全・安心・健康な社会の実現を目的として、国・自治体・民間が連携して取り組むべき社会運動です。

平成28年2月3日
内閣府総務大臣 安倍晋三

◆市長・市議会議長に
総理大臣・知事メッセージ伝達
(七月一日)

第66回 社会を明るくする運動

◆第35回 射水市中学生生活体験発表大会開催

上田 俊斗さん(新湊南中)

県大会市代表に

射水市中学生生活体験発表大会は、「社会を明るくする運動」の一環として毎年開催され、今年で三十五回目を迎えました。射水市中学校長会のご協力により、会場を市内中学校持ち回りでお願いし、開催校の生徒会の皆さんには、司会・運営のご協力をいただいています。

本年度は、五月十九日射水市立小杉中学校で開催されました。

はじめに、射水保護司会五十嵐繁久会長のあいさつ、続いて亀田重幸射水市中学校長会長の激励の言葉がありました。市内中学校六校から代表者が一人ずつ、持ち時間五分間で、それぞれの体験の中から感じ、学び、思うことを発表しました。小杉中学校の全校生徒の皆さんも真摯に発表を聴き受け止めて下さいました。

発表後、審査委員長の杉本茂射水市教育委員会次長から、講評と審査結果の発表があり、県大会の市代表には、新湊南中学校三年の上田俊斗さんが選ばれました。

表彰式では発表者ひとりひとりに、五十嵐射水保護司会長より賞状とトロフィーが贈られました。



▲ 発表者の皆さん

◎発表者及び演題
新湊南中学校三年 上田俊斗さん
「信じる」ことは「生きる」こと
小杉中学校三年 原田はなかさん
「伝える」
小杉南中学校二年 西野太翔さん
「曾祖母との関わりを通して」
射北中学校三年 笹木空見さん
「私のおばあちゃん」
新湊中学校三年 加治芹菜さん
「マグちゃんの握手」
大門中学校三年 種谷有曜さん
「違うってすてき！」



上田さん、富山保護観察所長賞に

七月二日、「ポルフェアートとやま」で54回富山県中学生生活体験発表大会が行われ、県内各地域代表の十七人が出場し、学校生活や家庭での体験を通じて感じたことや主張を発表しました。

審査を待つ間、広報ビデオ「保護司のまなざし」の放映と保護司の活動とその喜びが放映されました。

最優秀賞の富山県知事賞は、「そして私は風になる」と題して発表した(舟橋中学校二年)竹内百花さんが受賞されました。射水市代表の上田俊斗さんは、富山保護観察所長賞(2位相当)に輝きました。



▲ 堂々と発表する上田さん

◆更生保護公開講座を開催

射水保護司会では、市民の皆様にも「更生保護」について関心を持っていただきたいと、年に一度公開講座を行なっています。

本年度は七月五日、富山短期大学名誉教授の小芝隆氏をお招きして「子どもと健全な人格の育ちと大人の役割」と題してお話いただきました。

教育心理学、教育基本法、いま子どもたちを巡る国内の問題、外国の様子、教育への国の支援など、幅広くお話いただきました。

お話のなかで印象に残ったのは、子どもはみんな良い人間になりたいという成長への強い願いを持っている。いろいろなところをほめること、頑張っているところをほめること、そしていま頑張っていることをほめるためには、相手をよく見ることが必要となり、その視線が本人への応援のメッセージになるということでした。

先生のお話を、地域の身近な大人として、また今後の保護司の活動に役立てていきたいと思いました。

◆小学校で薬物乱用防止教室を開催予定

射水市、市教育委員会、各学校及び教育関係の皆様のご協力とご理解により、新湊・小杉・大門ライオンズクラブと協同で市内小学校六年生を対象に行なっている薬物乱用防止教室が、今年で四年目をむかえました。

有名なスポーツ選手や、タレント、ミュージシャンなどの薬物乱用がマスコミで報じられています。今年も子どもたちに「ダメ！ゼッタイ！」を強く伝えていきたいと思っています。

| | |
|--------|---------|
| 7月13日 | 新湊小学校 |
| 9月20日 | 金山小学校 |
| 11月30日 | 大島小学校 |
| 12月2日 | 片口小学校 |
| 1月12日 | 大門小学校 |
| 1月13日 | 中太閤山小学校 |
| 1月17日 | 東明小学校 |
| 1月17日 | 塚原小学校 |
| 1月20日 | 作道小学校 |
| 1月24日 | 太閤山小学校 |
| 2月13日 | 堀岡小学校 |
| 2月13日 | 歌の森小学校 |
| 2月14日 | 下村小学校 |
| 2月16日 | 小杉小学校 |

「おかえり。」に込められた思い

Message

犯罪や非行をした人は、反省とつぐないを経てやがて社会へ戻ってきます。

彼らの立ち直りには、本人の努力はもちろんですが、まわりの人や社会の支えが欠かせません。

住まいがあれば、明日を信じられる。仕事があれば、自分を信じられる。

まっすぐに受け入れることで、繰り返されるあやまちを減らすことができます。

つまづいても、やり直せる社会へ。

「おかえり。」という言葉には、更生保護の原点にある思いが込められています。

第66回 社会を明るくする運動



射水市更生保護女性会だより

総会記念講演

講師 針山 節子氏
演題 「私を育ててくれた言葉たち」

平成二十八年四月三十日射水市更生保護女性会の総会で、富山県更生保護女性連盟会長 針山節子氏にお話をいただきました。

会長は富山市役所で保健婦として勤務、退職後、保護司・福祉事業理事長などを歴任してこられた中で、自分を育てた言葉として、

- 祖母……頑張りやだね
- 両親……手に職を持ちなさい
- 子供達……生んでくれてありがとう
- 姉……いつも大変な方を選ぶね
- 上司……仕事は記憶より記録
- 同僚……また一緒に仕事したいね
- 友人……いつも元気をもらえる
- こどもの教育……よく見る目、よく感じる心、よく働く手
- リーダーの心得……明るく、早い決断、育てる忍耐
- 人生の考え方……今日が一番若い日
- 苦手な人との付き合いかた……相手を変え、自分を変え、環境を変える

○最高の楽しみ……一年を楽しむなら花を、十年を楽しむなら木を、百年を楽しむなら人を育てよ

などを挙げられました。

人生は出会いの連続で、コミュニケーション力は人間性・内容力・対応力を高めることで深まると教えられ、講演が終わりました。

人生の先輩が伝えてくださった言葉を大事に受け止め、また良き出会いに感謝し、気を引き締めて歩んで行こうと思いました。



希望を持って前進を

射水市更生保護女性会

会長 道古 正子

暑い日が続いておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

昨年度は会員の方々のご協力を得て任期を務めさせて頂き、心より感謝申しあげます。今年度からは是非どなたかにバトンタッチをと考えておりました

が、それぞれに色々な事情がございました。過日の理事会において再任の承認を頂き、総会で報告をさせて頂きました。

さて本年は、射水市更生保護女性会が誕生して十周年の節目の年となります。

総会のあいさつの際に会員減少についてお話をし、会員拡大に努めていたいただきたいと願いました。勿論、このことも会の運営にはとても大切なことだと思いますが、これまでの「数の力」へのこだわりから「和の力」への思考転換をして、ひとりひとりが学びを通して力をつけ、プラス思考で持続可能な会をめざしてチャレンジしていきます。

それが、先輩が築かれた歴史と伝統を継続発展させることにつながると思っています。更生保護女性会の底力を信じ、確実な一歩を踏み出しましょう。今後は時代の変化に沿った活動と

は？と常に自身自身に問いかけて、自分をトレーニングしながら活動をしていきたいと思っています。

それぞれの立場を思いやりながら、できる人ができることをできる範囲でやってみて人間関係を深めて活動の活性化につなげていきたいなと思っています。

また、組織内の多様な人材を大切に活かしながら、マンネリ化に陥らないよう会員の方々と話し合い、明るい社会づくりに皆様と共に努めて参りたいと思っております。これまで会員の方々の温かさに救われ、楽しい雰囲気の中で活動できたことは何よりの幸いです。本年も活動の充実に向けて参りたいと思っておりますので、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

島原手延べそうめん販売にご協力ありがとうございました。

○平成二十八年度収益金
七二、六〇〇円
(一七九個分)

今年度も、富山県更生保護女性連盟の事業として島原手延べそうめん販売が企画されました。(当事業は、富山県更生保護女性連盟および地区更生保護女性会の活動資金作りのため行っています。)

養得園給食活動

塚原地区 奥村 篤子



「ん～美味しそう」

女性会の理事会で、中伏木・塚原地区合同の養得園給食当番日が五月八日に決まり、さっそく献立について話し合いました。

「この時期には、筍や蕨があるからね。」

「筍入りの煮物」

「蕨のキンピラ風煮」

「煮豆(豆に働けるように願い)」

「漬物(きゅうり・大根)」

「みそ汁(豆腐・すり身・わかめ)」

これらはすべておふくろの味だと思えます。親を思い出してもらいたいで、会員それぞれ分担し自宅で調理することにしました。

さらにスタミナをつける為に、チキんカツ(店に依頼)とポテトサラダ添え

を追加することに決定。献立を考えた時、料理を作ったりしている時、「私たちの作った食事は口に合うだろうか？」

「親のことを思い出すのだろうか？」

「アレルギーのある人は？」

当日調理室にて盛り付けし、配膳を終了。出上がりを見て、

「わあ！きれい。」

「おいしそうね。」

「お祭りのような御馳走だね。」

とそれぞれ自己満足し、おいしそうに食べている様子を想像しました。

今回初めて給食活動に参加された方々のために、施設内の案内と園生の現状について施設長さんよりお話をさせていただきました。その中で園生の若い子が一名、介護士の資格を取得する勉強しておられると聞きました。頑張って資格を取得し、今後の更生の道に役立ててもらいたいと願いました。

最後に罪を犯した人の立ち直りに、子を思う親の気持ちを含めて、地域の更生保護女性部の一員として給食活動を通して、社会復帰の手助けの一環となれば良いなと思えます。



希望を持って前進を

射水市更生保護女性会

会長 道古 正子

暑い日が続いておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

昨年度は会員の方々のご協力を得て任期を務めさせて頂き、心より感謝申しあげます。今年度からは是非どなたかにバトンタッチをと考えておりました

が、それぞれに色々な事情がございました。過日の理事会において再任の承認を頂き、総会で報告をさせて頂きました。

さて本年は、射水市更生保護女性会が誕生して十周年の節目の年となります。

総会のあいさつの際に会員減少についてお話をし、会員拡大に努めていたいただきたいと願いました。勿論、このことも会の運営にはとても大切なことだと思いますが、これまでの「数の力」へのこだわりから「和の力」への思考転換をして、ひとりひとりが学びを通して力をつけ、プラス思考で持続可能な会をめざしてチャレンジしていきます。

それが、先輩が築かれた歴史と伝統を継続発展させることにつながると思っています。更生保護女性会の底力を信じ、確実な一歩を踏み出しましょう。今後は時代の変化に沿った活動と

県外視察研修の旅

平成二十八年六月二十三日・二十四日

●民間更生施設「はぐるまの家」訪問
この施設は、閑静な住宅地の中にありました。

初めに施設長から「はぐるまの家」を始めた経緯や、様々な理由から親との生活が困難になった子供たちを受け入れ、十七歳まで養育する中で苦労話など、四十年にわたる「はぐるまの家」の歩みを伺いました。

その後、入所生Aさんと職員二名による和太鼓「はぐるま」の演奏を聴きました。

Aさんが「はぐるまの家」に来たのは二歳の時で、七つの障害を持ち、人には全く心を開こうとしなかつたそうです。

十七歳になった今、私たちの前で心に響く素晴らしい演奏を聞かせてくれました。その表情から自信さえもうかがえました。Aさんが、施設長や職員の方々の愛情で居場所を見つけ、夢中になれるものを見つけ、いま私たち



の目前で一生懸命太鼓をたたく姿を見て、目頭が熱くなったのは私だけではなかつたと思います。テレビ・新聞などで更生施設に関する報道を見聞きする機会はありませんでしたが、訪問し実際に目で見、肌で触れることができてとても貴重な体験となりました。

●人道の港・敦賀ムゼウム見学

古くから大陸との玄関口として栄えた敦賀港は、ポーランド孤児や「命のビザ」を持ったユダヤ人難民が上陸したことでも知られています。最初に案内ボランティアからムゼウム内の説明を聞きました。

ムゼウムとは、ポーランド語で博物館という意味だそうです。敦賀港の歴史やシベリア鉄道とのつながりをうかがえる写真やビデオ・資料などを見ながら、当時の人々の思いに心を馳せました。そして、ユダヤ人に「命のビザ」を発行した杉原千畝の人道愛と勇氣に改めて感動させられました。

十二月五日に公開された映画「杉原千畝」を機会があればぜひ見たいと思えました。

射水保護司会定期総会開催

平成二十八年射水保護司会の定期総会が四月二十六日、射水市大門庁舎で開催されました。

来賓に富山保護観察所中澤秀高企画調整課長、夏野元志射水市長、津田信人射水市議会議長、中川新太郎射水警察署長、長井忍射水市教育長、亀田重幸中学校長、長原好成小学校長、射水市地域福祉課、協力雇用主会、更生保護女性会、大門ライオンズクラブ他、名誉保護司会員、関係各位多数のご臨席を賜りました。

総会では五十嵐会長から十年を一つの節目として、さらに犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くために、「保護観察を考えるシンポジウム」を本年十月二十三日に開催し、市民の皆様にご理解とご協力をお願いしたいと発表がありました。

来賓の中澤富山保護観察所企画調整課長、夏野射水市長、津田市議会議長、中川射水警察署長から祝辞と激励の言葉をいただきました。

引き続き議案審議に入り、本年は役員改選にあたり副会長に豊田博保氏を決め、二十七年事業報告、決算報告、二十八年事業計画、取支予算案を原案通り承認可決され、総会は滞りなく無事終了しました。



「十周年を迎えて」

射水保護司会が誕生して十年が経ち、会員も六割が新しくなりました。

市当局の支援や地域各団体のご協力、先輩や名誉保護司会他多くの皆様のお蔭で、全国保護司連盟から平成二十五年、二十六年、二十七年と三年間連続で更生保護組織で実施する先駆的、モデル的事業に対する活動助成を受けました。中学生生活体験発表大会・市作品コンテストの開催と作品集の発刊・薬物乱用防止教室の開催等、学校部会を中心に継続して取り組んできたことが評価されたものと思います。今後ともこの活動を継続していきたいと思っております。

また、会員の定例研修会の出席率向上と自主研修の充実を図り、再犯防止につなげたいと思います。

社会貢献活動、就労支援事業と今後対象者に対する処遇活動が複雑多岐になってきました。今年六月より刑の一部執行猶予制度が施行されるなど、この十年間は更生保護活動に大きな変革がありました。

十周年を迎え、「保護観察を考えるシンポジウム」を十月二十三日に開催し、射水保護司会の新たなスタートにしたいと思っています。

市民の皆様をはじめ関係各位のご協力とご支援をお願いし、多数のご参加をお待ちいたしております。

各部会活動報告

総務部会

昨年より、事務局長が総務部会長として理事会を主宰するほか、各部会が所掌しない行事や事務について連絡調整を行っています。

今年度の第1回理事会は4月8日に28年度の各種事業の日程確認や定期総会の準備、第2回理事会は6月21日今年度前半の事業報告・事業計画の打合せを行いました。

7月は、社会を明るくする運動の協調月間でもあり、行事が目白押しでした。
10月、11月の主な行事を掲載しますので、ご協力をお願い致します。
10月23日 射水保護司会護関係団体10周年記念シンポジウム
11月16日 富山県更生保護事業関係者顕彰式典
11月26日 「社会を明るくする運動」射水市作品コンテスト表彰式

研修部会

新たな地域処遇会議に挑戦
(テーマ) 保護観察
昨年の討議課題は、「保護観察について」の「悩み・辛さ・感動・裏切り」等々、多くの課題を提言してくださいました。それらを基本に「法務研究所の全国アンケート・射水保護司への調

地域活動部会

6月8日、県保護司会連合会の地域活動部会協議会が開催されました。地方公共団体を含む各関係機関・団体との連携の状況と円滑な連携を図る上で配慮すべき事項について協議されました。
射水保護司会では、「社会を明るくする運動射水市推進委員会」の構成機

今後の予定

8月23日(火) 午後1時30分、第2期定例研修・自主研修(大門庁舎)
9月18日(日) 午前10時、第2回地域処遇会議(新湊交流会館)
12月6日(火) 午後1時30分、第3期定例研修(大島社会福祉センター)
※開催場所を御確認の上御参加ください。

「更生保護サポートセンター射水」だより

富岡 民生

企画調整保護司としてサポートセンターに駐在するようになり、一年半になります。毎週金曜日の午後、半日勤務しておりますが、当初は管理が主な仕事だと思っておりました。

しかし実際には、会長をはじめ多くの方が訪問されました。保護司会の運営・行事に携わり、学校部会では「中学生生活体験発表大会」の発表者の募集、大会準備、射水市作品コンテスト募集、学校への依頼、作品回収、選考会、優秀作品の表彰式の日程調整などを熱心に行ないました。

薬物乱用防止教室開催については、ライオンズクラブとの協力、日程調整、当保護司会薬物乱用防止委員との内容についての打合せ等がありました。

また、対象者との面接会場予約、更生保護女性会理事会の開催申し込み、十周年実行委員会の打合せなど、各部会の担当保護司の日頃の活動に触れました。

そついった中七月上旬、富山の「悩み相談所」の紹介で、午後から相談に訪問したい旨連絡が入り、五十嵐会長と二人で対応しました。

市外の方であり、現状では保護司が関わるテーマ以外のことも多かったため、まず保護司の役割、サポートセンターの設置目的等を説明しました。

息子が車のローンの残債があるのに職についていないため、返済に困っている。相談者は年金とアルバイトで生計をたてているので、生活に余裕がな

くて援助できない。借金の返済の話になると、当人が自暴自棄になってしまふ。何とか早く職について欲しいという相談でした。

詳しく話を聞くと、小学生時代からいじめにあつていたこと、不良仲間に入って高校を退学になったこと、その後、何度も警察の世話になり、その度に父親が頭を下げ、なんとか大事にいたっていないことなどを、話されました。

「本人と両親が、もつ一度充分話し合い、職につき立ち直ることができるように自覚するよう努力してほしい」と回答しました。



関・団体と協力し、強調月間の7月5日に新湊交流会館で更生保護公開講座を開催し、小芝隆氏が講演されました。海の日の7月18日には、海王丸パークで街頭宣伝活動を展開しました。ご協力いただきありがとうございます。

協力組織部会

4月26日 第一回打合せ
6月3日 射水地区更生保護協力雇用主会総会
6月6日 社明運動協議会
7月15日 市更生保護協会総会
8月4日 県就労支援推進協議会
8月25日 県保連 協力組織部会
9月29日 更生保護協力会会費集金28年度がスタートしました。
協力雇用主、民間協力者の発掘、更生保護法人に対する協力、社会貢献活動への積極的参加など、「我々会員一同が一年生に戻って事業を推進すべきでは…」と痛切に思っています。

学校部会

5月19日、第35回射水市中学生生活体験発表大会を県大会予選を兼ねて小杉中学校で開催。市内6中学校の代表生徒が小杉中学校の全生徒が聴く中で、堂々の発表をしました。その中から、演題「信じる」ことは「生きる」こと」を発表した新湊南部中学校3年の上田俊斗さんが射水市代表に選出されました。
7月2日、第54回富山県中学生生活

体験発表大会がポルファートとやまで開催。各地区代表生徒17名が発表しました。その中で上田俊斗さんは富山保護観察所長賞を受賞しました。発表内容・態度共に立派であり、聴く者の心に素直に入り込んでくるものでした。この取り組みが、いじめや非行のない明るい学校や社会を築こうとする一人ひとりの意識づくりに結びつくことを願っています。体験発表にご理解とご協力を頂いた市内中学校の皆様からお礼を申し上げます。

広報部会

4月26日 広報21号第1回編集会議
5月24日 第2回編集会議
6月1日 更生保護女性会と広報21号編集打合せ、原稿依頼など
6月20日 県「富山更生保護」編集委員会
8月下旬 広報21号発行

今回も市更生保護女性会の皆様に2ページ分を担当していただきました。保護司会をはじめ皆様のご寄稿をよろしくお願いいたします。



◆射水保護司会事務局日誌◆

平成28年

4月8日 第1回理事会

4月12日 第1回三役会 (以後毎月第2火曜日開催)

4月13日 薬物乱用防止教室ライオンズクラブと打合

4月19日 第16回10周年実行委員会 (以後毎月1回)

4月26日 平成28年度射水保護司会定期総会

4月30日 平成28年度射水市更生保護女性会定期総会

5月19日 第35回射水市中学生生活体験発表大会

5月24日 第1期地域別定例研修会自主研修会

6月3日 射水地区更生保護協力雇主会総会

6月6日 第66回「社会を明るくする運動」射水市推進委員会

6月8日 県地域活動部会協議会

6月19日 第1回地域処遇会議

6月21日 第2回理事会

7月～8月 「社会を明るくする運動」射水市作品コンテスト作品募集

7月～2月 薬物乱用防止教室

7月1日 首相・知事メッセージ伝達

7月2日 第54回富山県中学生生活体験発表大会

7月5日 公開講座 講師小芝隆氏

7月7日 富山短期大学名誉教授

7月10日 青少年育成富山市民会議

7月15日 富山県更生保護フェアin富山射水市更生保護協力会定期総会

7月18日 「第66回社会を明るくする運動」街頭宣伝活動

8月4日 県就労支援推進協議会・刑務所出所者就労支援事業協議会

8月5日 薬物乱用防止指導員高岡地区協議会総会

8月23日 第2期地域別定例研修会自主研修会

8月25日 保護司候補者検討協議会(12月新任分)

8月25日 県協力組織部会協議会

9月2日 県研修部会協議会

9月10日 「社会を明るくする運動」市作品コンテスト選考会

9月13日 「事務担当者等」協議会

9月18日 第2回地域処遇会議

10月23日 射水保護司会発足10周年記念シンポジウム

11月16日 富山県更生保護事業関係者顕彰式典

11月26日 「社会を明るくする運動」市作品コンテスト表彰式(ラポール)

12月6日 第3期地域別定例研修会自主研修会

12月8日 県総務部会協議会

1月17日 社会貢献活動

◆保護司の異動・退任◆

保護司の異動(敬称略)

退任保護司(平成28年5月24日付)

奥多 敏雄(七美)

(七美ことぶき苑)
2月7日 第3期定例研修会
自主研修会

他に、企画調整保護司打合せ会
(約5回開催予定)

◆編集後記◆

今回も盛りだくさんの行事報告に終わりがちではありませんでしたが、十周年の節目を迎え、「より良い広報づくり」と意気込みを新たにしています。皆様のご寄稿、ご指導、ご感想をよろしくお願い申し上げます。



射水保護司会 設立10周年記念事業

保護観察を考えるシンポジウム

「地域で支える立ち直り」

日時/平成28年 10月23日(日) 13:00~16:30 (開場12:30)

会場/高周波文化ホール(新湊中央文化会館)小ホール (射水市三日曾根3-23 ☎0766-82-8400)

基調講演
講師:尾田 清貴氏(日本大学法学部教授)
演題:「保護観察の新たな展開について」

保護司の体験事例発表
「保護司活動の体験から」
「保護観察青少年への対応」
「保護観察対象者への就労支援」

パネルディスカッション
「これからの保護観察にむけて」

主催 射水保護司会
共催 社会を明るくする運動射水市推進委員会/射水市更生保護女性会
射水地区更生保護協力雇用主会/射水市更生保護協力会
後援 射水市/富山保護観察所/富山県保護司会連合会

お問合せ先 更生保護サポートセンター射水
☎0766-52-7696 http://hogoshi.com